

# Berlin Report

July 2019

## CONTENTS

- \* Project 1: Provocateur Hotel / hotel
- \* Project 2: Golden Phoenix / restaurant

## 1. Provocateur Hotel

### Project Overview

2017年からドイツ全土で大人気のテレビシリーズ「バビロン・ベルリン」。このシリーズの舞台となっているのは、1924年～29年頃の「黄金の20年代」といわれる時代のベルリンだ。世界中から作家、芸術家、音楽家、そして科学者たちが集まり、欧州の文化の中心として花開いた時代。その時代のベルリンをイメージして作られたデザインホテルが、「プロヴォケーター」だ。

1911年、高級住宅街の目抜き通りだったクーダムからすぐという立地に建てられた邸宅を、建築当時のまま残していた豪華なフローリングや天井の漆喰彫刻、高い天井などを生かして修復、改装した物件。

アムステルダム在住のデザイナー Saar Zafrir は、黄金の20年代の雰囲気を変えながらも、モダンで使いやすく、且つ、ホテルの名前通り「挑発的な」インテリアを実現した。

ゲストはまず、入り口をくぐると突然、1912年から現役の豪華なエレベーターに出迎えられる。

ロビーをあえてつくり、ホテルに来た瞬間から別の時代に来たような、そんな体験をしてほしいというコンセプトだ。ペトロールとボルドーの2色をキーカラーにしたビロードや黒大理石といった、1920年代アール・デコの時代に好まれた素材を多く取り入れた家具、ところどころに効かせたグラス（真鍮）素材の黄金の輝き。

部屋を指定して泊まるお客が多いだけでなく、ファッションシューティングに使われることも多い。

ホテルに併設されたバーやレストラン Golden Phoenix (後述)も、数々のデザイン賞を受賞している。

### Project Details

1. Type of Business : Hotel
2. Open Date: 01/03/2017
3. Location: Brandenburgische Strasse 21, 10707 Berlin
4. Size: 56 rooms, 2 suites
5. Interior Designer: Saar Zafrir

### Location Map





邸宅だった時代のディテールを生かした作り。アール・デコの時代の骨董なども置いている。



客室は、ボルドーとペトロール色のビロードを基調にしたインテリア。



フィッシュボーン・フローリングは、邸宅が作られた当時のオリジナル。ディティールのそこそこに真鍮の金色の輝きを取り入れる。  
左手前にある家具やバスに続くドアにも金色の筋を入れて統一感を持たせている。



ランプやバスタブなどもアール・デコを意識したものを。



ホテルの入り口のドアを開けると目の前に現れる、エレベーターと踊り場スペース。

1912年、100年以上前から現役のエレベーターは、高級邸宅だった時代の趣をいまに伝える。

この雰囲気を生かすためにあえてロビーを奥に隠した。右手奥にはカフェバー、さらに奥にはレストラン Golden Phoenix がある。

## 2. Golden Phoenix

### Project Overview

黄金の 20 年代と呼ばれる、華やかかつ退廃的なムードも漂う 1920 年代のベルリンにタイムスリップしたようなインテリアが人気のホテル「プロヴォケーター」。

2017 年のホテルエール・オブ・ザ・イヤーにも選ばれたこのホテルに併設のレストラン「ゴールデン・フェニックス」では、チャイニーズ・ストリート・フードを提供する。

竹を並べたような素材感の壁や、真鍮の網を組み合わせたようなアール・デコ風ながらもどこかオリエンタルな香りを漂わせるランプなどをそこここに散りばめながらも、全体としてはヨーロッパ風のインテリアである。

2020 年度のドイツ語圏「最も美しいレストラン」にも選ばれている。

レストランの前にあるホテルバーは、2019 年のミクソロジー・バー・アワードも受賞。

### Project Details

1. Type of Business : Hotel
2. Open Date: 01/03/2017
3. Location: Brandenburgische Strasse 21, 10707 Berlin
4. Size: 40 Plätze
5. Interior Designer: Saar Zafrir

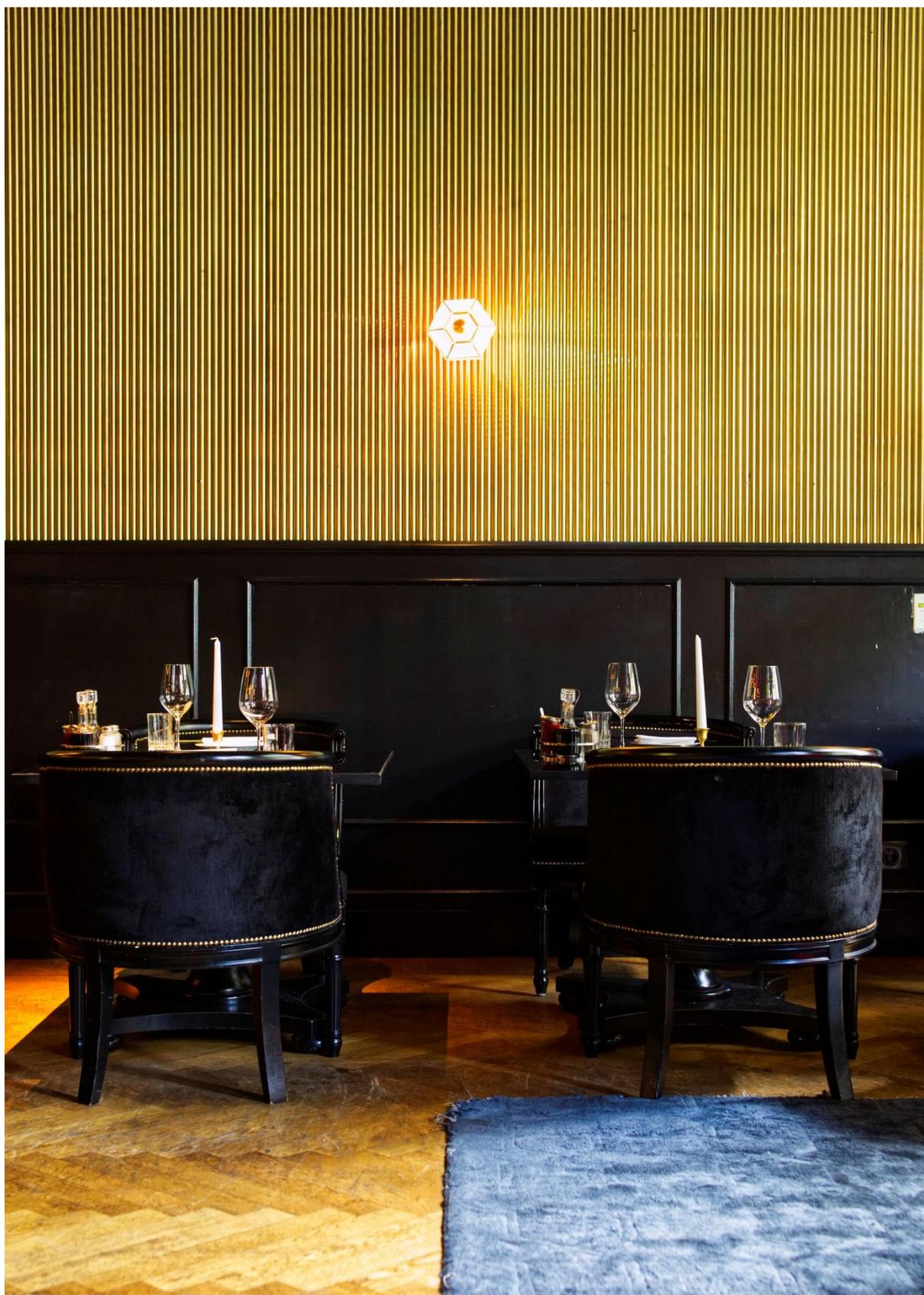




チャイニーズ・ストリートフードの店ながら、アール・デコ風の家具と緑が作る影、どこかオリエント風の照明や壁の風合いが、高級感を醸し出す、あえてのミスマッチ。



レストランの前にあるバースペース。どちらの空間もあえて照明を落として、金色を目立たせている。



家具自体はヨーロッパ風。

オープンキッチンだったり、あえて安い中国食器を使うセンスが嫌い。フローリングなどは 1911 当時のままだ。